

学内研究ニュース

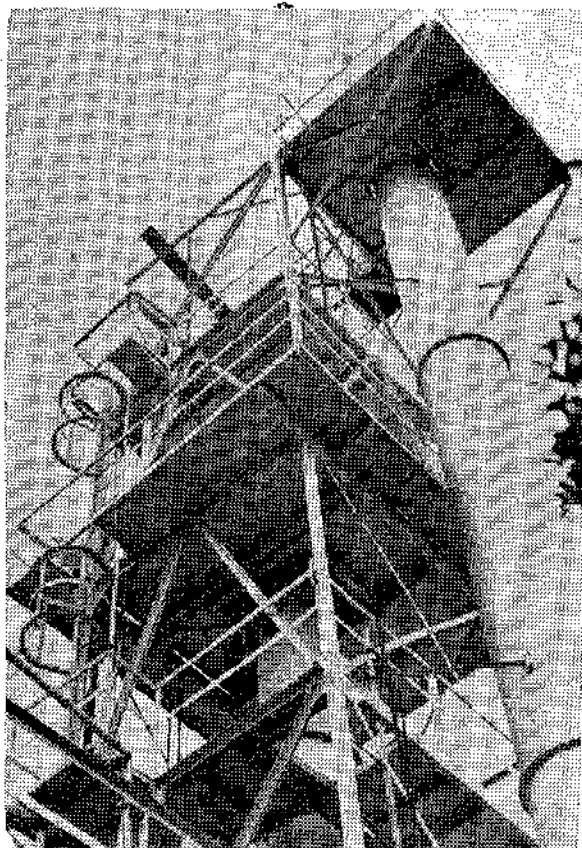
流動式石油減圧分解炉

応用化学科堤研究室

昭和30年度文部省化学研究促進費 700万円を以て、応用化学科天満分室内に建設中の石油分解炉は7月23日完成した。その後配管工事並びに各部の計器の調整工事も終了し、近く本格的な試運転にとりかかる予定である。

この石油分解炉は1日処理能力半吨を有し石油分解ガスを1日約 350m³ 製造することが出来る。

この炉は触媒加熱炉、反応炉、冷却器、及びバケツト・コンベアーよりなり、4mm 程度の小球状触媒はバケツト・コンベアーにより上に運ばれ、ホットパーを通つて触媒加熱炉に入り、ここで 1,200~1,500°C に熱せられ次で触媒は反応炉に降下し、ここで石油蒸気と接触してこれを石油化学の主原料であるエチレンとプロピレンとに分解する。石油分解により多少の炭素を附着した触媒は冷却器で冷却され、バケツト・コンベアーを通して再び加熱炉に入り、ここで附着した炭素が焼却され、この



操作をつくりかえます。

操作は 300mmHg 程度の減圧下で行はれる。この試みは世界最初のものである。

石油化学の経済性は一にこの分解炉の熱経済如何に係るものであり、この分解炉の操業完成の暁にはこの方面の工業的發展に大きな寄与をなし得るものと確信している。(写真に完成した石油分解炉)

阪大25周年記念行事

大阪大学は昭和6年5月1日に帝大となつて本年が丁度25周年に当るので10月29日の体育祭を皮切りに意義深い記念行事をくりひろげるが映画「大阪大学」を製作する外研究業績を中心にした大阪大25年史を各学部委員教授により編さんする。主な行事は次の通り

体育祭—29、30、11月2日北校グラウンド△文化祭—31日午前9時大手前会館、11月3日午前9時30分北校講堂△学内開放—11月1日特別招待口、2、3日午前中学生、午後一般△講演会—11月2日午後1時医学部講堂、文学部藤直幹教授—近世の大阪の学問、5日午後5時中央公会堂、法学部大阪谷公雄教授—イギリスの社会生活と家族生活、外△記念式1日午前11時中央公会堂にて長岡、楠本両先生の顕彰並びに功労者、永年勤続者の表彰がある。

尚記念事業計画として予算2億円にて本部大講堂建設の計画が進められている。

第4回 日本学術会議会員選挙

阪大工学部推薦候補者決定

本年十二月施行される第四回日本学術会議選挙に阪大工学部は多賀谷正義君（冶金学科教授、採大十一、東北大金属昭三）岡田実君（熔接工学科教授、現学術会議会員、電昭二、東北大金属昭五）を推薦しました。

全国区才五部（金属工学）岡田 実 君

近畿地方区才五部

多賀谷正義君